

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

最後の 中体連 力を出し切り やり抜こう！

昨日、中学校総合体育大会地区大会の選手推戴式が執り行われました。以下は式辞の内容です。

どの部活動もこの日のために頑張ってきた中学校で最大、そして三年生にとっては最後の大会です。

「勝ちに不思議の勝ちあり負けに不思議の負けなし」これはヤクルトスワローズを4度の優勝に導いた野村監督の言葉です。なぜ勝てたのか分からない試合がある一方で、負けた理由は必ずあるということです。

勝負は何が起こるか分かりません。調子が悪くても相手が崩れて流れがくる時もありますし、その逆もあります。最大の敵は自分自身の気持ちです。勝負の流れを呼び込むために次のことを心がけてください。まず、気持ちで負けない

を入れます。特に一回戦は緊張が解けないままなので、いつも以上に動き、声を出して気持ちをオンにしましょう。

二つ目が、練習でやってきたことを貫く。これまで積み重ねてきた練習を信じてください。

三つ目が、最後の最後までやり切る。自分より相手が強いと

感じてもらうについて絶対に諦めない。弱いと感じたら、気を抜かずに自分のプレーで勝ち切ることで。その姿勢がトーナメントを勝ち抜くうえではとても大事です。

そして四つ目は、自分のベストを目指す。特に陸上競技ですが、限界を感じてもまだまだ余力があるものです。残っている力を絞り出し、ベストを目指してください。

力にあまり差がない時には、勝ちたいと強く思う方が勝ちます。残された時間をしっかりと意識して過ごし、ベストの状態

で試合に臨んでください。部活動以外の社会体育や習い事に懸命に取り組んでいる人も多いですが、自分の目標に向かって頑張っている全ての皆さんを応援しています！

「正直」は良いこと？

思ったことや、感じたことをそのまま「正直」に口にすることは良いことなのでしょうか？

「正直」の言葉の意味は「嘘や偽りなく本当のことを言うこと」とあります。それは人格や誠実な態度を示したりすることであり、多くの場面は肯定的に評価されます。

そこで生成AIに「正直」が向かう良い場合、悪い場面を尋ねてみました。すると次のような回答が得られました。

【良い方向に向かう場合】

- ・嘘をつかず、誠実に接すること
- ・人間関係が深まり、周囲からの信頼を得られます。
- ・自分に正直でいることで改善すべき点を認識しやすくなり自己成長の機会を増やせます。
- ・職場や家庭で正直なコミュニケーション

に率直に意見を交換できる健全な環境を作ることができます。

【悪い方向に向かう場合】

- ・率直に伝えることが、時として相手の感情を傷つける結果につながる場合があります。
- ・状況を考慮せずに正直すぎる態度を取ると周囲の人との衝突

誤解を生む可能性があります。

・ビジネスや交渉の場面であまりに正直すぎると立場を不利にすることがあります。

どうでしょうか？ここからわかることは、正直であることは大切

ですが、その伝え方やタイミングもとても重要だということです。

「正直」だから「本音」だから「仕方ない」と考え行動している人は、言われた相手の気持ちや状況を考慮する「配慮」は足りていないでしょうか？思うことや感じることは自由ですが、言葉や態度に出すことはやはり「配慮」が必要なのだと私は思います。

「相手意識」と「思いやり」を念頭に置き、多面的・多角的に考えることで、思慮深く、より良いコミュニケーションが取れるようになります。言葉や態度に出す前に「いったん立ち止まって」それが適切かどうかを考え、判断できるようにしたいですね。

「当たり前」のレベル

唐津の学校で生徒会を担当していた時、考えに甘いところがあつた生徒たちに、本当にこのままでいいのか問いかけ、自分たちが納得できるまで何度もやり直しをさせました。

最初は戸惑っていた生徒たちも少しずつうまく活動が進められるようになり、周りからその頑張りを認められることで徐々に自信をつけてきているのが分かりました。声が大きくなり、指示も的確になつてきます。次にやるべきことを判

断し先手をとって行動するようになりました。

ある日、市の連合生徒会に参加し他の学校との討論や活動を終えた子どもたちが一言、「他の学校はあまり考えていないですね」「その活動をするという問題意識が低いです」と。それは半年前の彼らの姿です。

半年という短い間でしたが、自分たちで活動の意義や進め方を理解し、「当たり前」にやってきたことが実は他の学校では当たり前ではなく、知らないうちにレベルアップしていたのでした。当たり前前のレベルが上がると更にレベルアップを図ろうとしますし、成長の度合いも上がります。

平和集会では、彼らの企画で地元の戦争体験者にインタビューをして平和宣言へと繋げました。そんな活動を重ねてきた彼らは、卒業してどの高校に行っても臆することなく、自信をもってしっかりと行動できる

ようになるでしょう。ノミの話でも言いましたが、集団の中の「当たり前」の意識のレベル、行動のレベルを上げていきましょう。それが力強く生きていく地力をつけるのです。みんなでより高い「当たり前」を目指し、みんなで成長し、みんなが自信をもって生きていきましょう。

校長室より

最近左耳の調子が悪く、まだ話してなかった一年生にこれまでの経緯と現状を話し、声の大きさ等への心配りをお願いしました。彼らは気遣おうと頑張ってくれています。本当にありがとうございます。